

疾患との関連性 ⑦猫の飼育経験

今回は、猫についての検証結果です。猫も犬と同じように、疾患と飼育経験に関連性はあるのでしょうか。どうぶつkokusei調査の猫の飼育経験に関する回答（初めて、2頭目、3頭目以上）をもとに、猫の飼育経験と疾患との関連性を調査しました。

【飼育経験との関連が認められた疾患】

猫の飼育経験が増えるにつれて発生が多くなる傾向の疾患



循環器

猫の飼育経験が増えるにつれて発生が少なくなる傾向の疾患



消化器

下に示したグラフのように、猫の飼育経験によって疾患の請求割合に違いが表れ、猫の飼育経験と一部疾患との関連性が認められました。

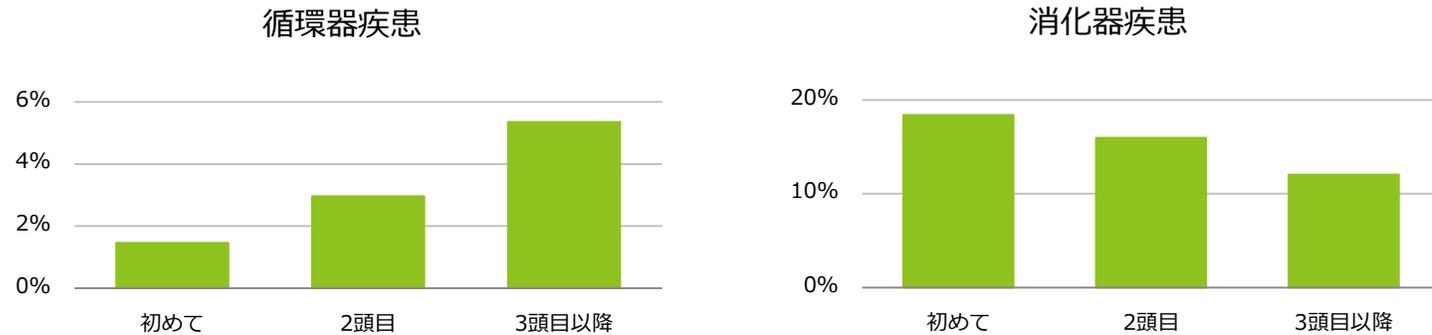
循環器疾患は、初期の症状がわかりづらい疾患です（疲れやすい、呼吸が荒い、咳など）。そのため、飼育経験が増えるほど、猫の小さな体調の変化から疾患の発生に気づくことができるのかもしれない。

消化器疾患は、症状がわかりやすく、気づきやすい疾患ですが、お迎え直後、ごはんの変更後、季節の変わり目などちょっとした環境の変化が症状につながることもあります。ある程度の予備知識を持ち、飼育環境を整えることが、疾患の予防につながる可能性があります。

※アニコム損保のペット保険ご契約者様におかれましては、LINEのどうぶつ健康相談サービス「どうぶつホットライン」もご利用いただけます。

■アニコム損保のどうぶつホットライン
<https://www.anicom-sompo.co.jp/hotline/>

【各疾患の請求割合】



・アニコム損保のどうぶつkokusei調査（実施期間：2016/2/15～23）において、猫の飼育経験に関する回答のあった871頭に対し、2015/8/15～2016/8/14の間に保険金請求のあった疾患から分析
・各疾患の請求割合：猫の飼育経験に関する回答のあった871頭のうち、該当疾患で上記期間に請求があった頭数の割合